

# PET-CT 検査説明書

患者名： 様

## 1. PET-CT 検査について

この検査はブドウ糖類似体に放射性同位元素を標識した 18F-FDG という薬剤を静脈注射し、全身に行き届いた後に PET-CT 装置で撮影を行い、病気の原因や病状を画像にして診断をする検査法です。

## 2. 安全性について

検査において使用する 18F-FDG はブドウ糖の類似体であり、重篤な副作用の報告はありませんが、稀に(1.2%)、気分不快・発熱・嘔吐・血圧低下などを起こす事が報告されています。

## 3. 被曝について

使用する薬剤は非常に強い放射線を放出しています。注射をしますと患者様自身が放射線源となり、PET-CT 検査 1 回で約 9.0mSv(ミリシーベルト)という量の被曝を伴います。これは胃のバリウム X 線検査を 2 回受ける放射線量とほぼ同量です。また自然界では、宇宙線や食物等から年間に約 2mSv の放射線を受けると言われています。

## 4. 検査中について

注射後は極力安静にして頂き、注射後約 2 時間は検査区域から退出することはできません。また検査中はスタッフの被曝防止の観点から、マイクでのご案内や防護ガラス越し、距離をおいての患者様対応となる事をご了承ください。

## 5. 付き添いについて

患者様おひとりで寝台への昇降が困難な場合や、視力・聴力に障害をお持ちの場合には、ご家族の付き添いをお願いする事がありますのでご協力をお願いいたします。また、被曝の観点から乳幼児や小さなお子様を連れての検査はできません。

## 6. 検査後について

検査終了後、約 2 時間程は、乳幼児や小さなお子様、妊娠されている方との親密な接触はなるべく控えるようお願いいたします。それ以降につきましては特段制限等はございません。

## 7. PET-CT 検査の限界について

病気の種類によっては見つけ難いものもあり、また 1cm 以下の大きさの物は発見されない場合もあります。血糖値の高い場合にも発見されない場合があります。

## 8. PET-CT 検査の医学的利用について

この検査で得られた画像や結果等は、検査を受けた患者様が特定できないように十分に配慮した上で、学術・研究等に利用させていただく事がありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

## 9. キャンセル等について

この検査で使用する医薬品は使用期間が非常に短いため、必ず検査時間までに来院していただく必要があります。検査時間に遅れた場合には検査ができませんのでご注意ください。また、薬品発注の関係から当日のキャンセルはできませんのでご注意ください。

担当医師

---